都道府県名	徳島県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	由岐町立木岐小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	１	１	１	１	１	１	１	７	９
児童数	３	８	４	３	７	６	１	３２	

Ⅱ　研究の概要
１．研究主題

やる気をもって、仲良く仲間とともに伸びる子どもづくり
ー基礎・基本の確実な定着をめざしてー

２．研究内容と方法
(1)　実施学年・教科

２年生・算数
・児童の理解の状況に差が出やすい教科である。
・本校では児童数が一番多い学級で、学習作業の速度や理解度において多様である。また、個別指導が必要な児童がいる。
・昨年度も一部の教科や時間において、ＴＴ指導を行ってきた学級である。それに、学び支援の講師が週に２時間だが入ることができるなどＴＴ指導が可能である。

(2)　年次ごとの計画

平成15年度	○　テーマ 学力向上をめざした教材開発・指導方法の工夫 ○　研究の見通し 基礎・基本に視点を当てた児童の実態を客観的に把握する。そして、発達段階に応じた基礎・基本の定着を図るために、教材開発や指導方法をどのように工夫改善すればよいのかを日々の授業実践の中で検証していく。 ○　研究の内容・方法 ①習熟度別学習の研究 基礎・基本の定着はもとより、習熟度の高い児童のニーズにも応じた指導を研究する。 ②ＴＴ指導の工夫 複数の指導者によるきめ細かな指導の在り方を探る。 ③全学年標準学力検査の実施 児童の実態を客観的に把握する。 ④先進校視察及び研究会参加 教師の指導力の向上に努める。

平成16年度	○　テーマ 学力向上をめざした教材開発・指導方法の推進・充実 ○　研究の見通し １５年度の取り組みでできた課題について全学年で研究する。そして、発達段階に応じた基礎・基本の定着を図るために、教材開発や指導方法をどのように工夫改善すればよいのかを学年間のつながりをもちながら日々の授業実践の中で検証していく。 ○　研究の内容・方法 ①習熟度別学習の研究 基礎・基本の定着はもとより、習熟度の高い児童のニーズにも応じた指導を研究する。 ②ＴＴ指導の工夫

複数の指導者によるきめ細かな指導の在り方を探る。
③全学年標準学力検査の実施
児童の実態を１５年度と比較しながら客観的に把握する。
④町内の学校間の連携
授業研究会に参加し合うなどして教師の指導力の向上に努める。
⑤２年間の成果のまとめ
１７年度に引き継ぐことができるようにする。

(3)　研究推進体制

校　長 ― 教　頭 ― 研修係 ― 職員会議 ― 個人／全体

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

・習熟度別学習では、児童のつまずきや課題意識に合わせた教材開発や指導がやりやすい。個別指導が必要な児童もできた・分かった喜びを感じながら、基礎基本の内容を身に付けていくのに効果的である。
・現段階では、学力の向上を昨年度と比較するなど数値としてとらえることはできない。しかし、乗法九九のテストでは、７人が９０点以上で、残りの１人（個別指導が必要な児童）が８０点をとることができるなど学力の向上の手応えを感じる。
・ＴＴ指導では主に担任がメインで、学び支援講師が個別指導が必要な児童を支援するスタイルで実践してきた。それぞれの役割を果たすことで、目標の達成面などで効率的な授業を展開することができている。
・二人が打ち合わせをすることで、変化のある授業形態や教材提示をすることができている。
・教材開発の面では、支援講師が得意なものづくりが上手く機能し、児童の興味関心が高まるものができることがあった。
・全体的に昨年度より学習に取り組む態度に落ち着きがみられるようになってきている。
・何とかして基礎・基本の確実な定着をしなければならないという意識を教師自身が一層もてるようになった。

２．今後の課題

・習熟度の高い児童のニーズを満たし、さらに向上させる教材開発や指導方法が不十分である。
・どの単元で、時間でどのような学習形態がより個に応じて効果的なのかを明確にしていく必要がある。
・習熟度別によって優越感・劣等感をもたせることのないように配慮する。
・小規模校であるため、担任外の教師がいない。そのために全学年でＴＴ指導を行うには時間割作成や指導形態の工夫が必要不可欠である。
・学力向上のためには教材開発や指導方法の工夫が最も大事であるが、それを支える学級経営の充実など教師の力量をもっと高めなければならない。
・評価規準や判定基準を作成はしているが、十分に活用しているとはいえない状況である。
・自己評価や相互評価をもっと取り入れ、児童の学習意欲を高め、より主体的に取り組むようにしなければならない。
・町内のフロンティアスクールである由岐小学校や由岐中学校との連携をより一層進め、実践研究が深まることが望まれる。
・学力向上事業の取り組みについてもっと保護者に広報し、理解や協力を得ることが必要である。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

平成１６年　：　標準学力調査を実施の予定
○　採点及び項目チェックは業者に依頼する。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

１　平成１５年６月５日
県教育委員会学校計画訪問
○　研究授業　　　わかくさ学級
算数　「パズル遊び」
○　授業研究会
講師
障害児教育指導室指導主事
山越　明　先生

２　研究会の実施予定
○　平成１６年度１学期
由岐中学校、由岐小学校、木岐小学校が参加する
授業研究会を予定している。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☑　１５年度からの新規校　□　１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　☑　７～１２学級
□１３～１８学級　□　１９～２４学級
□２５学級以上

【指導体制】　□　少人数指導　☑　Ｔ．Ｔによる指導
□　一部教科担任制　☑　その他

【研究教科】　□　国語　□　社会　☑　算数　□　理科
□　生活　□　音楽　□図画工作　□　家庭
□　体育　□　その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　□　有　☑　無